

【龍岡】

鍛冶屋・妙見前

⑥3 幸門城跡



幸門城跡は玉川ダム湖の真北の山上にある。伊予国の3分の1以上を支配していた河野氏の将・正岡氏の居城だった。玉川近辺の各山城の中心的存在で、最大規模の城だったようである。

幸門城の始まりは、建武年間1330年代とされている。鎌倉後期から栄え、当初は「岡の城」と呼ばれていた。南北朝時代に、長慶天皇の入城により幸門城と改名された。天正13年(1585)豊臣秀吉の四国攻めにより、落城したものとされる。

落城の数年前の1579年、家老・鳥生石見守は鷹ヶ森城主の越智駿河守と謀って、正岡経政を討ち取り来島氏に属そうとしたが、陰謀は発覚し討ち取られた。鷹ヶ森城へ逃げようとした妻子も、途中の鬼原で討ち取られた。「五人衆さん」(P.15参照)として祀られている。

現在、歩道はよく整備されている。頂上付近は本丸跡を偲ばせる広場になっている。また、わずかに石垣の跡が残っている。



⑥4 お不動さん



妙見前集会所から300mほど山に入った谷の岩に、お不動さんが刻まれている。不動明王は大日如来の使者といわれており、悪魔を降伏させるために恐ろしい姿をされている。

岩に荒々しく刻まれたお不動さんは、無相上人という僧によつて開かれたと伝えられている。



お堂の中には、無相上人和讃と無相上人歴が壁に掛けられている。観世音菩薩、薬師如来も祀られている。

⑥5 隠れキリシタン碑？



羽藤耕一氏宅に残されている碑

妙見前には、隠れキリシタン碑と伝わる石塔がある。板碑と一石五輪塔に似た形状を示し、石材は安山岩である。玉川町を含む高縄半島西部地域特有の石塔であることから、近年、高縄式石塔(高縄塔)とも呼ばれている。同様の形態のものが玉川町内だけで約30基確認され、高縄半島西部全体では数百基を数える。

⑥6 馬頭観音



馬頭観音は、元来は煩惱を打ち砕き病を取り除く力を持ったものだったが、やがて馬の供養の意味合いを持つようになった。鍛冶屋バス停の近くに祀られている。